

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	病理組織検査学 (Laboratory Histopathology)		
ナンバリングコード	S20313	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 標準レベル / 臨床検査学
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S007301	クラス名	-
担当教員名	長 濱 純二		
履修上の注意、 履修条件	受講前後に講義内容についての予習・復習を必ず行うこと。 遅刻や私語など、講義の妨げとなる行為をした学生には退室を命じるとともに、その日の出席を無効とする場合があります。		
教科書	最新 臨床検査学講座 病理学／病理検査学 (医歯薬出版)		
参考文献及び指定図書	最新 染色法のすべて (水口國雄他、医歯薬出版) 病理検査技術教本 (一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会)		
関連科目	病理学1、病理学2、細胞診検査学、解剖学		

○基本情報		
授業の目的	病理組織検査は、各臓器や疾患ごとに異なる組織の形態学的な特徴を理解する上で重要な検査手法である。 病理組織検査学では、各臓器や各疾患別の組織標本における顕微鏡像を理解し、標本作製のための技術や原理を理解し習得する。さらに各種染色などの原理を理解する。また、典型的な疾患については顕微鏡像と疾患の関連をよく理解することを目標とする。	
	本科目では、病理組織学的検査の意義、組織標本作製に用いる各種機器の使用法、ならびに組織標本作製の工程 (組織の切り出し・固定・脱灰・包理・薄切、および各種染色法) を学び、病理組織学的検査の担う役割やその重要性を理解する。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	科目担当者は細胞検査士としての30年以上にも及ぶ病理検査実務経験をもとに、現場に則した病理学の授業を展開する。	

○成績評価の指標		○成績評価基準 (合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】				
【ディプロマ・ポリシー2】	幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	100点		
【ディプロマ・ポリシー3】				
【ディプロマ・ポリシー4】				
○成績評価の補足 (具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
原則として授業終了前に確認テストを実施し、解説は次の授業中に行います。 グループワークは、実際の組織像 (写真) を観察し、ディスカッション後に発表します。授業内で総評を行い、ポイントを解説します。 期末試験を受けるためには3分の2以上の出席が必要です。 課題等のフィードバックは、次回以降の授業内等で適宜行います。				

○その他	
講義はup-to-dateなものとするため、講義日程を変更する場合があります。 進行状況や学修状況等により講義内容の追加や削除等変更をする場合があります。 講義内容についての質問・要望等は、講義前後に教室で受け付けます。 学習相談は、授業終了後もしくはオフィスアワーの時間に担当教員の研究室に来てください。	

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	病理組織検査学 (Laboratory Histopathology) 長 濱 純二	授業コード	S007301
学修内容					
1. 病理組織検査の意義、病理学的検査業務の管理					
病理組織検査の意義と概要、病理学的検査業務の管理について学修する。					
予習	教科書を読み病理組織検査の意義、病理学的検査業務の管理について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
2. 病理組織標本作製法					
病理組織標本作製法の固定、切り出し、脱脂法、脱灰法について学修する。					
予習	教科書を読み病理組織標本作製法の固定、切り出し、脱脂法、脱灰法について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
3. 病理組織標本作製法(包埋、薄切)					
病理組織標本作製法の包埋法、薄切法について学修する。					
予習	教科書を読み病理組織標本作製法の包埋法、薄切法について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
4. 凍結切片標本作製法					
凍結切片標本作製法の目的、固定前凍結切片標本作製法、固定後凍結切片標本作製法について学修する。					
予習	教科書を読み病理組織検査について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
5. 染色法総論と基本染色					
染色の目的、染色前と染色後の操作、病理組織検査の基本染色であるヘマトキシリン・エオジン染色について学修する。					
予習	教科書を読み染色法総論と基本染色について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
6. 結合組織の染色法					
結合組織の染色法: 膠原線維、弾性線維、細網線維の染色法について学修する。					
予習	教科書を読み結合組織の染色法について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
7. 多糖類、糸球体基底膜の染色法					
多糖類染色法 (PAS反応、Alcian blue、mucicarmin染色、toluidine blue染色)、糸球体基底膜の染色法 (PAM染色、Masson trichrome染色、azan Mallory染色) について学修する。					
予習	教科書を読み多糖類、糸球体基底膜の染色法について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間
8. 脂質、核酸の染色法					
脂質の染色法 (Sudan Ⅲ染色、oil red O染色、Sudan black B染色、Nile blue染色)、核酸の染色法 (Feulgen 反応、Methyl green-pyronin染色) について学修する。					
予習	教科書を読み脂質、核酸の染色法について予習する。				約2時間
復習	教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。				約2時間

○授業計画		科 目 名 担当教員	病理組織検査学 (Laboratory Histopathology) 長 濱 純二	授業コード	S007301
学修内容					
9. アミロイド、線維素の染色法 アミロイドの染色法、線維素の染色法 (PTAH染色) について学修する。					
予習		教科書を読み病理組織検査について予習する。			約2時間
復習		教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。			約2時間
10. 組織内無機物質、生体内色素、内分泌細胞の染色法 組織内無機物質の染色法 (鉄の検出法、カルシウム染色法)、生体内色素の染色法 (メラニン色素の染色法)、内分泌細胞の染色法 (Grimelius 染色、Masson-Fontana 染色) について学修する。					
予習		教科書を読み組織内無機物質、生体内色素、内分泌細胞の染色法について予習する。			約2時間
復習		教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。			約2時間
11. 組織内病原体、神経組織の染色法 組織内病原体の染色法 (一般細菌の染色法、抗酸菌の染色法、スピロヘータの染色法、真菌の染色法、HBs抗原の染色法)、神経組織の染色法 (Nissl 小体の染色法、髄鞘・Nissl 小体の染色法、神経原線維の染色法) について学修する。					
予習		教科書を読み組織内病原体、神経組織の染色法について予習する。			約2時間
復習		教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。			約2時間
12. 免疫組織化学染色 免疫組織化学染色の目的や種類 (酵素抗体法、蛍光抗体法など)、免疫組織化学染色で検出される腫瘍マーカーについて学修する。					
予習		教科書を読み免疫組織化学染色について予習する。			約2時間
復習		教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。			約2時間
13. 分子病理組織検査法 (遺伝子の染色法) 分子病理学組織検査法の目的や種類 (in situ hybridization 法: ISH法、fluorescence in situ hybridization 法: FISH法) について学修する。					
予習		教科書を読み遺伝子の染色法について予習する。			約2時間
復習		教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。			約2時間
14. 電子顕微鏡標本作製法、病理解剖 電子顕微鏡標本作製法の目的や種類 (透過型電子顕微鏡標本の作製法、走査型電子顕微鏡標本の作製法)、病理解剖について学修する。					
予習		教科書を読み病理組織検査について予習する。			約2時間
復習		教科書、配布資料、参考図書などを利用し、学修した内容を整理する。			約2時間
15. 総復習 これまでの講義で十分な理解ができていないところをピックアップし再学修する。					
予習		理解不足な内容や知識を深めたい内容をまとめておく。			約2時間
復習		復習した内容をノートにまとめる。			約2時間
16. 期末試験					
予習					
復習					